

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本ニューマチック工業東大阪新工	階数	地上2F
建設地	大阪府東大阪市菱江	構造	S造
用途地域	都市計画区域(未線引区域)、準防	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年11月5日
敷地面積	6,850 m <sup>2</sup>	作成者	竹中工務店 尾崎
建築面積	3,979 m <sup>2</sup>	確認日	2019年11月5日
延床面積	4,481 m <sup>2</sup>	確認者	竹中工務店 尾崎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	"ガラスを多用したオープンで働きやすい業務空間"を実現しながらも、ペアガラスを採用し、室内温熱環境に配慮した計画とした。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	天井の高い業務倉庫は床置き型の空調を分散配置し居住域の快適性に配慮した計画とした。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	維持管理に配慮した設計において維持管理機能の確保を心がけている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内は駐車場に緑化ブロックを敷くこととし、できる限り緑地を設けている。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	空調はGHPを採用し、電力デマンドの低減を図る。また使用頻度の少ない業務倉庫は人間センサー型の照明とした。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料の使用、またリサイクル材の採用や部材の再利用で資源に有効利用に心がけている。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	水質汚濁等を起こさない様配慮している。適切な台数の駐車場の確保、管理・荷別用車両スペース確保している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0106

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	日本ニューマチック工業東大阪新工場
	建設地	大阪府東大阪市菱江
	用途/区分	工場 事務所

【評価結果】	CASBEE 総合評価		A															
①	CO2削減		5															
②	みどり・ヒート アイランド対策		2															
③	建物の断熱性		5															
④	エネルギー削減		5															
⑤	自然エネルギー直接利用		○															
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	<table border="1"> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>○</td> <td>風力</td> <td>—</td> <td>地熱</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>—</td> <td>水力</td> <td>—</td> <td>バイオマス</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table>	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—											
太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—											

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.9	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	5.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		